

耳の日

金崎耳鼻咽喉科医院

金崎 幹人

若松区東二島3丁目7-7

電話 772 - 5557

3月3日は耳の日です。よい機会ですのでご自分の耳について考えてみませんか。耳は、外耳・中耳・内耳の3つに分けられ、頭蓋骨を構成する15種類の骨のうち側頭骨という骨の中に大部分が収まっています。外耳は耳介と外耳道、鼓膜からなり、中耳は鼓室といわれる空間で空気が含まれており、耳管という管で上咽頭(鼻の一番奥の部分)とつながっています。内耳には、蝸牛と前庭といわれる部分があります。前庭は、体の平衡感覚をつかさどっており障害されるとふらつきやめまいをおこします。

耳に入った音は、鼓膜を振動させ中耳にある耳小骨という3つの小さな骨を介して内耳の蝸牛に入ります。蝸牛は音という振動のエネルギーを神経の活動電位(電気的信号)に変換する場所です。この活動電位が、脳幹を経て大脳皮質に達して音として認知されます。この一連の経路のうち、外耳と中耳は音を伝える伝音機構で、内耳以降を音を感じる感音機構といいます。一口に難聴といっても、一連の経路の音の入り口である外耳から大脳皮質までの広い範囲の障害が原因でおこります。伝音機構である外耳、中耳の障害でおこる難聴を伝音難聴、感音機構の内耳以降の障害でおこる難聴を感音難聴と分けることができます。この2つの難聴は、原因となる責任部位が異なり、治療方針が全く異なるので早く鑑別することが必要です。聴力検査をすることで診断することができます。純音聴力検査が聴力を評価するための最も基本となる検査で、外耳から鼓膜を振動させて内耳へ達する伝わり方を測定する気導聴力と側頭骨(内介の後部)を刺激して内耳に達するものを測定する骨導聴力があります。この2つの聴力の結果から、伝音難聴と感音難聴を鑑別します。伝音難聴をおこす疾患は、耳垢、急性中耳炎、滲出性中耳炎、鼓膜穿孔、耳管の障害(機能低下)、耳小骨の異常などです。感音難聴をおこす疾患は、突発性難聴、音響外傷、メニエール病、内耳炎、騒音性難聴、薬剤中毒、聴神経腫瘍などです。急に難聴になると自覚される方が多いのですが、徐々に聴力が低下すると気付かないことがあります。ご自分の聴こえをチェックしてみてください。

1. 会話で聞き返すことが多くありませんか。2. テレビの音が大きいと言われませんか。3. 電話で不自由を感じませんか。4. 会議や講演会などで十分に聴きとれますか。5. ボソボソと話す人の声が聴こえにくくありませんか。

該当する項目があれば、一度耳鼻咽喉科で相談されてみてはいかがでしょうか。